商品名　ドグマチール筋注50mg 医薬品基本情報

薬効	2329 その他の消化性潰瘍用剤	一般名	スルピリド注射液
英名	Dogmatyl	剤型	注射液
薬価	89.00	規格	50mg 1管
メーカー	日医工	毒劇区分	(劇)

ドグマチール筋注50mgの効能・効果

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、統合失調症

ドグマチール筋注50mgの使用制限等

1. 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、プロラクチノーマ、プロラクチン分泌性下垂体腫瘍、褐色細胞腫又はその恐れ・疑い、パラガングリオーマ又はその恐れ・疑い

記載場所	使用上の注意
注意レベル	禁止

2. 低血圧又はその恐れ・疑い、心・血管疾患又はその恐れ・疑い、QT延長、QT延長を起こし易い体質、低カリウム血症、著明な徐脈、パーキンソン病、レビー小体型認知症、栄養不良状態を伴う身体的疲弊、脱水を伴う身体的疲弊、脱水状態、肥満、長期臥床、不動状態、腎機能障害、高齢認知症

記載場所	使用上の注意
注意レベル	注意

ドグマチール筋注50mgの副作用等

1. 死亡

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

2. 悪性症候群、Syndrome malin、無動緘黙、強度筋強剛、嚥下困難、頻脈、血圧変動、発汗、発熱、白血球増加、血清CK上昇、ミオグロビン尿、腎機能低下、高熱が持続、意識障害、呼吸困難、循環虚脱、脱水症状、急性腎障害、痙攣、QT延長、心室頻拍、Torsades de Pointes、無顆粒球症、白血球減少、AST上昇、ALT上昇、γ－GTP上昇、Al－P上昇、肝機能障害、黄疸、遅発性ジスキネジア、口周部不随意運動、不随意運動、深部静脈血栓症、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、息切れ、胸痛、四肢疼痛、浮腫

記載場所	重大な副作用
頻度	0.1%未満

3. 心電図変化

記載場所	その他の副作用
頻度	頻度不明

4. 月経異常、乳汁分泌、女性化乳房、不眠、眠気、めまい、ふらつき、口渇、胸やけ、悪心、嘔吐、便秘、熱感、倦怠感、血圧下降、錐体外路症状、パーキンソン症候群、振戦、筋強剛、流涎、ジスキネジア、舌のもつれ、言語障害、頸筋捻転、眼球回転、注視痙攣、嚥下困難、アカシジア、静坐不能、射精不能、睡眠障害、不穏、焦燥感、頭痛、頭重、浮遊感、興奮、躁転、躁状態、しびれ、運動失調、食欲不振、腹部不快感、AST上昇、ALT上昇、Al－P上昇、発疹、体重増加、浮腫、
脱力感、排尿困難、性欲減退

記載場所	その他の副作用
頻度	5%未満

5. 乳房腫脹、勃起不全、錐体外路症状、パーキンソン症候群、振戦、筋強剛、流涎、舌のもつれ、焦燥感、発疹、浮腫、性欲減退、心電図異常、血圧上昇、胸内苦悶、頻脈、物忘れ、ぼんやり、徘徊、多動、抑制欠如、無欲状態、下痢、胸やけ、腹痛、食欲亢進、皮膚そう痒感、視力障害、眼球冷感、眼球重感、眼のちらつき、頻尿、腰痛、肩こり、熱感、発熱、発汗、鼻閉

記載場所	その他の副作用
頻度	0.1%未満

6. 急激な昇圧発作、内分泌機能異常、プロラクチン値上昇、錐体外路症状、嘔吐症状を不顕性化、悪性症候群、Syndrome malin、肺塞栓症、静脈血栓症
、血栓塞栓症、哺乳障害、傾眠、呼吸障害、振戦、筋緊張低下、易刺激性、離脱症状、パーキンソン症候群、昏睡、疼痛、硬結、死亡率上昇、精巣萎縮、妊娠率低下、下垂体腫瘍、乳腺腫瘍、腫瘍

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

ドグマチール筋注50mgの相互作用

1. 薬剤名等 ： QT延長を起こすことが知られている薬剤

発現事象	QT延長・心室性不整脈等の重篤な副作用	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤はいずれもQT間隔を延長させるおそれがあるため、併用により作用が増強	指示	注意

2. 薬剤名等 ： ジギタリス剤

発現事象	ジギタリス剤飽和時の指標となる悪心・嘔吐・食欲不振症状を不顕性化	投与条件	-
理由・原因	本剤の制吐作用	指示	注意

3. 薬剤名等 ： ベンザミド系薬剤

発現事象	錐体外路症状、内分泌機能異常	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤は抗ドパミン作用を有するため、併用により抗ドパミン作用が強くあらわれる	指示	注意

4. 薬剤名等 ： フェノチアジン系薬剤

発現事象	錐体外路症状、内分泌機能異常	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤は抗ドパミン作用を有するため、併用により抗ドパミン作用が強くあらわれる	指示	注意

5. 薬剤名等 ： ブチロフェノン系薬剤

発現事象	錐体外路症状、内分泌機能異常	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤は抗ドパミン作用を有するため、併用により抗ドパミン作用が強くあらわれる	指示	注意

6. 薬剤名等 ： 中枢神経抑制剤

発現事象	相互に中枢神経抑制作用を増強	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤は中枢神経抑制作用を有する	指示	注意

7. 薬剤名等 ： ドパミン作動薬

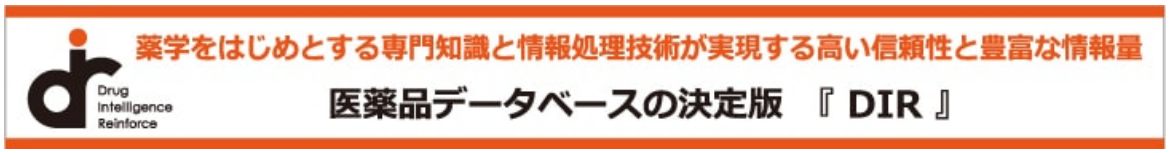
発現事象	相互に作用を減弱	投与条件	-
理由・原因	本剤は抗ドパミン作用を有するため、作用が拮抗	指示	注意

8. 薬剤名等 ： アルコール

発現事象	相互に中枢神経抑制作用を増強	投与条件	-
理由・原因	ともに中枢神経抑制作用を有する	指示	注意

9. 薬剤名等 ： 飲酒

発現事象	相互に中枢神経抑制作用を増強	投与条件	-
理由・原因	ともに中枢神経抑制作用を有する	指示	注意



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.